



# 自己肯定感・ 授業力向上 プロジェクト NEWS

平成 29 年 2 月

JJUP【自己肯定感と授業力向上】

## 守口支援学校における 自己肯定感・授業力向上プロジェクトの 取り組みについて

校長 郡司 弘子

本校ではめざす学校像に「地域や関係機関との連携を深める中で、一人ひとりの児童・生徒の障がいや発達状況に応じた、最も必要で適切な教育の創造」を掲げています。その実現のために、児童生徒への有効な支援や対応方策を研究し、児童・生徒の自己肯定感を高め、一人ひとりに必要で適切な支援の充実を図ることを中期的目標にしています。

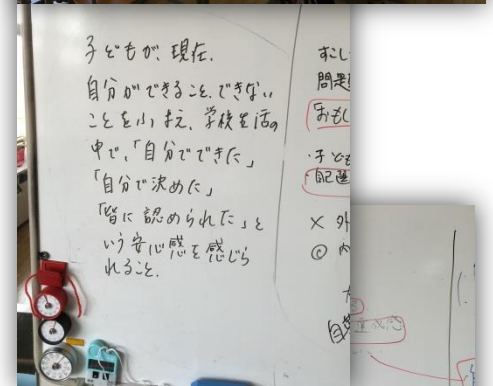
また、国の教育再生実行会議においても、日本の子どもたちの自己肯定感（自分に対する肯定的な意識）が諸外国に比べ低いことへの対応が検討されているところです。

私たちは、自己肯定感は障がいの有無にかかわらず「生きる力の原動力」になると考えています。人は誰でも「うまくいくとき」「うまくいかないとき」があります。「うまくいかないとき」、言い換えるなら「心が弱っているとき」に、自己肯定感は気持ちを

元に戻す力、気持ちを奮い立たせチャレンジしようとする力になると思います。

こうした自己肯定感を学校という安心できる環境の中で、育み高めていくための指導支援方法を2か年で集中的に探究しようと「自己肯定感・授業力向上プロジェクト」を始めました。この取り組みを通して、教員が子ども一人ひとりを理解し、寄り添い、愛情深く受け止め、一人ひとりの障がいや発達状況に応じた適切な支援を行える専門性の高い教員集団となることをめざしてまいります。

保護者の皆様におかれましては、本校のこのような取り組みをご理解いただき、ご家庭においても、以下にお示しするようなことを参考に、子どもたちの自己肯定感が高まるようご協力をいただけたらありがたいと思います。宜しくお願い致します。



## プロジェクト・レポート

## － 4つの取り組み－

教頭 紙野 泰彦

### I：全体研修会と研究授業

教員対象の研修会を放課後や長期休業中に企画・実施しています。普段の授業に研修の内容を取り入れ、実践に理論を結びつけていくことで、「この発達段階だから、このように行動しているのか、だから、この指導方法を実施しよう」と根拠に基づく授業を行っています。

また、「研究授業」（実際の授業を他の教員が観察し、共に研究する）では、本校の学校協議会委員でもある立命館大学教授の青山先生にも助言をいただきながら、「児童・生徒が自らわかって、うごける授業づくり」をテーマに授業研究を進めています。この取り組みでは、児童・生徒の自己肯定感の向上はもちろんですが、授業者はもちろん、研究に参加している教員全員の自己肯定感を高めることができる、そして、多様な考え方、見方を認め合い、お互いを尊重できる…。そんな、研究授業を目標にしています。

### II：テーマ研修会（各学部毎での学習会）

学部毎に有志が集まり、実際の事例を持ち寄って検討会を行っています。児童・生徒の実態把握、本人・保護者の願い、アセスメント、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」につながる目標設定、そして、実際の指導場面をビデオ撮影しての振り返り、次の授業に向けての改善…と非常に密度の濃い研修を実施しています。

こちらでも児童・生徒自身はもちろん、指導を担当している教員チーム、そして保護者の皆様の自己肯定感も高めるにはどうすればよいかを常に意識しながら、協議を進めています。

### III：守口支援学校版の自己肯定感スケールの検討（自己肯定感ってなんだろう）

身の丈に合った、背伸びすることのない「守口支援学校が目標とする自己肯定感」のものさしを探求しています。現在のところ、守口支援学校では自己肯定感の定義として、【自分のことを「いいね」と感じる】と定めてみようというところまで進んできました。本当に難しいテーマですが、プロジェクトメンバーは知恵を出し合い、検討を重ねています。

### IV：JJUP プロジェクト広報活動

プロジェクトメンバーだけが、本取り組みを実行しているのではなく、児童・生徒・保護者・教職員…すなわち、守口支援学校全体として「(J)自己肯定感向上、(J)授業力(UP)向上－JJUPに取り組んでいる」という気運を高める必要があることはいうまでもありません。

そこで、教職員向けプリントとして、ほぼ隔月で「JJUP だより」を配付するとともに、教職員パソコンシステムを活用した校内掲示板を使っての情報発信をおこなってきました。今後は保護者の皆様へも、本取り組みについての報告をこうした NEWS プリントやホームページを利用してお伝えしてまいります。



## 学校・担任は保護者の応援団

プロジェクトチーフ：小学部主事 室田 誠

保護者の皆さんの笑顔が子どもたちの成長の源です。そのためにも、決して無理はなさないでください。調子が出ないときには学校・担任に任せていただいて大丈夫です。お互いにキャッチボールしながら子どもたちの歩みを見守っていきたいです。

「ま〜いいか」と息抜きしつつ、元気なときに「自己肯定感向上プロジェクト」をご家庭でも進めていただければ幸いです。

保護者の皆さんは以下の2つのことを既にそろえていただいているように思います

1) 子どもたちが安心できる居場所（家）を提供していただいている。

子どもたちにとって、学校、放課後等デイ…と外に出ると楽しいことは、たくさんあります。ただ、想いがかなわないことも数多くありますよね。私たちも同じで、「外に出れば7人の敵がいる」とも言われるぐらいで、家を出ると大変なことも多々あります。「もっとトランポリンで跳んでおきたいのに、先生に『つぎのBちゃんと交代』といわれる」「すこし、苦手な先生やけど、授業やから我慢してうけないと…」「家では飲まない牛乳やけど、みんな飲んでるから、飲んでるねん」など。子どもたちは、緊張したり、我慢したりする中、本当によく頑張っています。ですので、緩んでもいい安心できる居場所（家）があることはとても大切なことのように思います。

・少々洗物がたまっても、少々片づけができていなくても、ポーっとできるくつろぐことができる場所がある。

・ケーキのセロファンをなめられる、寝そべることができる、バラエティー番組を見て笑っている場所がある。

・パフォーマンスや、できることばかりを求められない、向上することばかり求められない、そんな場所がある。

大切ですよ、緩む場面、安心できる場所があることは。

2) 児童・生徒を登校させていただいている

子どもがぐずっているときもあるでしょう、雨がふっている日も低気圧のときもあるでしょう、体調が悪いときもあるでしょう。そんな中、子どもたちを登校させていただき本当にありがとうございます。すごいことだと思います。毎日、決まった時間になったら、保護者の方は起きてきて、子どもを起し、登校するのに必要な用意をしていただいて、バス停まで送っていく…、見送る…。

改めて考えてみるとすごいことを続けていただいているのです。深く感謝いたしております。

1) 2) のうち1つでも素晴らしいことですし、2つそろっていれば子どもの自己肯定感を育む環境がほぼ整っているように思います。学校には、たくさんの教員がいます。A先生とうまいかないのならB先生、B先生とうまいかないのならC先生…。そして、広い空間もあります。気分転換できる運動場、Aの教室がだめなら、Bの教室に行くなど選択肢も多いです。大好きな友だちどうしの関わりにも期待できると思います。ですから調子が出ないときは学校にお任せください。私たちはいつでも皆さんの応援団でありたいと願っています。



その上で、私たち教員が子どもたちと、日々学校生活を共にする中で、心にとめていることを5つ紹介します。ご家庭でも参考にいただければ幸いです。

### ①たくさんほめましょう、認めましょう。

あたりまえと思っていることを、ほめてみましょう、感謝しましょう。「よく、起きてきたね」、「リモコンとってきてくれてありがとう」、「学校でがんばってきたね」、「デイで過ごしてきた、偉いね」、「1日よくがんばったね」、「電気、消してくれてありがとう」、「スムーズにバス停まで、歩いたね、すごい!」、「給食しっかり食べてえらいね」、「自分のかばんを担いででかけるって偉いね」、「靴下をはかすときに、足をあげてくれてありがとう、はかせやすかったわ」、「ほめ言葉」「ありがとう」の言葉かけシャワーをたくさん浴びせてあげてください。それに加えて、笑顔のシャワーも子どもが嬉しくなる大きな効果があります。

### ②その子にあわせた成長を確認してみましょう。

毎日一緒にいると、小さな変化に気づかないことが多いので、意識的に長いスパン、たとえば半年、1年というぐらいで、どんなことができるようになったのか、確認しましょう。そうすることで成長した点を発見し、子どもに伝えていただくことで、本人の喜び、大きな自信につながるように思います。また、このことを通し保護者の皆様自身の安堵感、そして自己肯定感も高まるのではないのでしょうか。

### ③本人が、決めたり、選んだりする場面をたくさん、作ってみましょう。

自分で決めて行動することで、やり遂げた気持ちが膨らみます。この「自分で選んだ」という経験の積み上げが、人生の主人公になる礎を築くように思います。2択（Aにする？ Bにする？）や、多くの中から好きなものを選んで

もらう、「どれを食べる？（メニューから）」など、本人が選んだり、決めたりする場面をたくさん作ってみてあげてください。

### ④一つずつ、ひとつずつ、できることが多くなるように、環境を整えましょう。

大人のお手伝いが少なくできることは、子どもの自信につながります。例えば、伸び縮みしやすい少し裾の広いズボンや前後がわかりやすい服を用意したり、出発時刻の6（30分）のところにマジックで○をつけ、長い針が6にきたら、家を出るからと伝えることで、本人が見通しを持って用意してくれるようになるなど。

\*ヒントなどは、担任の先生に相談してもらえればと思います。

### ⑤たくさん楽しい経験を一緒にしましょう。

「ぼく、これやったことあるねん」、「ここにきたことあるねん」、「この食べ物食べたことあって好きやねん」など、おもしろかった経験、たくさん楽しい経験が、新たな取り組みの力の源になるように思います。お子さんと一緒に保護者の皆様も楽しんでいろいろな経験をされてはいかがでしょうか。

